

在セネガル日本国大使館月報

2024年6月

主な出来事

セネガル

(外政)

- 4-5日、ファル外務大臣率いるセネガル代表団は韓国・アフリカサミットに出席し、同大臣はアフリカの主権を重視するビジョンを示した。(5日 Le Soleil)
- 20日、ファイ大統領は、ワクチン主権・イノベーションのための世界フォーラム出席のためパリを訪問し、マクロン仏大統領と会談した。また、カガメ・ルワンダ大統領とも会談した。(20日 大統領府 X)

(経済)

- 11日、セネガル沖のサンゴマル油田でオペレーターを務める豪ウッドサイド社は、セネガルで初の石油生産を開始したことを公表した。(12日 Le Soleil)
- 6月11日に採掘が始まったサンゴマル油田の石油が、7月から販売されることが公表された。2024年は1,170万バレル生産され、434万バレルが国内市場に出荷される。(24日 Le Soleil)

ガーボベルデ

- 3日、韓国・アフリカサミットで韓国を訪問中のネーヴェシュ大統領は、ユン韓国大統領と会談し、二国間関係の強化について協議した。(4日 balai CV)
- 14日、コレイア・エ・シルヴァ首相は、15-16日に開催されるウクライナの平和サミットに出席することを公表した。(14日 Expresso das Ilhas)

ガンビア

- ガンビア政府は、HIV、結核、マラリア対策を促進すべく、グローバルファンドの協力により2024年から2027年にかけて、感染症の予防、治療、機材整備、人材能力開発、ロジのサポートに対する約4千万米ドルの取り組みを開始した。(10日 The Point)

ギニアビサウ

- 3日、社会再生党(PRS)が国内紛争に関する臨時会合を開こうとビサウ市の政党本部に入ろうとした際に、警察が入館を阻止し、臨時党首の自宅付近で催涙ガスを噴射した。(3日 DW)
- ナビウム元首相がエンバロ大統領を批判し、ギニアビサウで内戦が発生する危険性を警告したことを受け、24日、エンバロ大統領は同元首相宅の警護を外す命令を下した。(24日 DW)
- 27日、エンバロ大統領は、複数の閣僚が辞任したことを受け、定例の交代だとの認識を示した。また、すべての市民はデモをする権利はあるが、無秩序を引き起こせばそれに見合った内務省からの応答を受けるだろうとの発言を行った。(27日 DW)

・閣僚の官職名は適宜省略した形とする。(例:ファル・アフリカ統合・外務大臣→ファル外務大臣など)

セネガル

(内政)

内政一般

- 28日、ソンコ首相は総合政策声明の発表準備はできているものの、国民議会手続き規則に首相の立場が明記されていないことから、7月15日までに修正されなければ国民から構成される市民議会の前で同声明を発表するとした。(29日 Le Soleil)

(外政)

二国間・多国間関係

- 4-5日、ファル外務大臣率いるセネガル代表团は韓国・アフリカサミットに出席し、同大臣はアフリカの主権を重視するビジョンを示した。(5日 Le Soleil)
- 5日、セネガル海軍にミサイル哨戒艦が納入された。同艦はフランスで建造され、セネガルにかつて存在した王国にちなんで「カヨール」と命名された。(5日 APS)
- 7日、ファイ大統領はトニー・ブレア元英首相と会談し、セネガルの戦略的ビジョンについて協議した。(7日 大統領府 X)
- 11日、ファイ大統領は、ウズラ・ゼヤ米国務次官(民間安全保障・民主主義・人権担当)を迎え、両国間関係について協議した。(11日 大統領府 X)
- 13日、ファイ大統領は、シエラレオネのビオ大統領と会談し、西アフリカの地域統合について協議した。(13日 大統領府 X)
- 20日、ファイ大統領は、ワクチン主権・イノベーションのための世界フォーラム出席のためパリを訪問し、マクロン仏大統領と会談した。また、カガメルワンダ大統領とも会談した。(20日 大統領府 X)
- 21日、ファイ大統領はパリでムシキワボ仏語圏国際機関事務局長と会談した。また、ジュフ・セネガル元大統領と面会した。(21日 大統領府 X)
- 27日、ファイ大統領はスペインのアルバレス外務大臣を迎え、二国間関係について協議した。(27日 大統領府 X)

(経済)

経済一般

- 3日、イスラム開発銀行は、セネガルの農業促進を目的に、1万8千人の米作従事者を対象として580億FCFA(約116億円)を投資することを公表した。(3日 APS)
- 3日、財務省は国際資本市場の投資家を対象とした債券の私募を開始し、7億5000万米ドルの調達に成功したことを公表した。(6日 APS)
- 4日、西アフリカ中央銀行は、持続するインフレの懸念から、政策金利を3.5%に据え置くことを決定した。同銀行のカッシン・ブル総裁は、インフレ率は2.8%と緩やかな上昇となり、目標とする1~3%に収まっているとの見解を示した。(5日 Le Soleil)
- 11日、セネガル沖のサンゴマール油田でオペレーターを務める豪ウッドサイド社は、セネガルで初の石油生産を開始したことを公表した。(12日 Le Soleil)
- 11日、中国企業39社がセネガル企業との協力機会を探すべくセネガルを訪問し、APIX 主催の企業交流会に参加した。(12日 Le Soleil)
- 12日、世界銀行はセネガルの経済情勢に関するレポートを公表した。そこで2024-2026年の平均

経済成長率は化石燃料の採掘により7.4%に達するとの見通しが示された。また、世銀は投資促進のため新政権に対して税務行政を改善するよう要請した。(13日 Le Soleil)

- 19日、IMFの経済調査団は2週間にわたる調査を終え、2025年のセネガルの経済成長率は、10.1%とサブサハラアフリカの中で最も高くなり、インフレ率は約2%に留まるとの見解を示した。(20日 Le Soleil)
- UEMOA(西アフリカ諸国経済通貨同盟)の報告書によれば、4月のセネガルの物価指数が前月比で0.4%下落した。要因は食品、非アルコール飲料の価格が下落したことと見られている。(22日 Le Soleil)
- 6月11日に採掘が始まったサンゴマール油田の石油が、7月から販売されることが公表された。2024年は1,170万バレル生産され、434万バレルが国内市場に出荷される。(24日 Le Soleil)
- 25日、ファイ大統領はサンゴマール油田の採掘現場を視察した。(25日 大統領府 X)

(社会)

- 6日、ジュフ高等教育・研究・イノベーション大臣は、7月2日に全土で実施される2024年バカロレア試験の登録者数が159,847人(女性は58.2%)に上ることを公表した。2023年の151,710人から約8,000人増となる。(7日 Le Soleil)
- 国家憲兵隊は、2023年にダカール州にて交通事故が3025件発生し、201名の死者が発生したことを公表した。(13日 Walf Quotidien)
- 24日、保健省は、メッカ巡礼から帰国したセネガル人が空港で新型コロナの検査を受け、78名の感染が確認されたことを公表した。(25日 Sud Quotidien)
- 24日、産業・商業省はダカール市内における生活必需品の最高価格を制限する省令を交付した。対象品目は、パームオイル、米、砂糖、小麦、セメント。(24日 APS)
- 25-26日、セネガルに滞在中の中国医療団は、ジガンシオール市において無料の医療と医薬品を提供し、1,063名が治療を受けた。同医療団は20回目のセネガル派遣であり、眼科医、整形外科医、耳鼻科医、放射線技師等から成る。(27日 APS)

(文化・スポーツ)

- サンゴール初代大統領が晩年フランスにて個人所蔵していた図書がフランスで競売にかけられたことに対し、文化・創造産業・先氏遺産担当国務大臣は同元大統領遺産が散逸することを懸念し、国として買い取ったことを公表した。(6日 APS)
- 27日、在セネガル韓国大使館のイニシアチブで、国立ソラノ劇場で第3回ダカールK-Pop フェスティバルが開催される。同大使館コミュニケによれば、本年10月に韓国昌原(Changwon)市で開催されるK-Pop ワールドフェスティバルにダカールで選ばれたダンス2チーム、歌1チームが参加予定。(25日 Le Soleil)

カーボベルデ

- 3日、韓国・アフリカサミットで韓国を訪問中のネーヴェシュ大統領は、ユン韓国大統領と会談し、二国間関係の強化について協議した。(4日 balai CV)
- 4日、政府と国連常駐事務所は、人材開発、経済と環境、ガバナンスと国土管理を優先分野とする開発戦略計画に対する1,570万米ドルの支援に合意した。(4日 balai CV)

- コレイア副首相兼財務大臣は、アフリカリーダーシップ誌により、2024年最も優れたアフリカの財務大臣に選ばれた。(4日 balai CV)
- 14日、コレイア・エ・シルヴァ首相は、15-16日にスイスで開催されるウクライナの平和サミットに出席することを公表した。(14日 Expresso das Ilhas)
- 15日、国民議会議長は、カーボベルデを訪問した米国の議員団8名と会談し、両国の議会で友好議連を設立し、関係を強化していく意思を表明した。(15日 Expresso das Ilhas)
- 世界経済フォーラムが公表した2024年ジェンダーギャップ指数において、カーボベルデはサブサハラアフリカ諸国の中で6位、世界で41位(日本は118位)だった。(18日 Expresso das Ilhas)
- 18日、アルバレス・スペイン外務大臣は、スペイン・カーボベルデ経済協力の強化、ブルーエコノミー改革、及び安全保障の強化を目的にカーボベルデを訪問し、ソアレシュ外務大臣と会談するほか、漁業・観光分野で進出しているスペイン企業の活動を視察した。(18日 Expresso das Ilhas)
- 18日、カーボベルデ軍参謀総長は、海域監視用の航空機を8月に配備することを公表した。(19日 balai CV)
- 26日、IMF理事会は、対カーボベルデ拡大信用ファシリティ第4回レビューの結果、590万米ドルの融資の引き出しを承認すると同時に、2023年12月に18か月の期間承認されていた強靱性・持続可能性ファシリティ(RSF)の第1回レビューを完了した。同レビューの完了により、追加で694万米ドル相当の引き出しが可能となる。(26日 Expresso das Ilhas)
- 28日、首都プライア市保健当局は、同市における Dengue 熱の感染者が1日平均7~8件確認されており、ここ数週間増加傾向にあることを公表した。(28日 balai CV)

ガンビア

- 5日、バロウ大統領は、5月4-5日にガンビアで開催されたイスラム協力機構サミットが成功裏に終わったとしてガンビア国民と関係機関を称えた。(5日 The Point)
- ガンビア政府は、HIV、結核、マラリア対策を促進すべく、グローバルファンドの協力により2024年から2027年にかけて、感染症の予防、治療、機材整備、人材能力開発、ロジのサポートに対する約4千万米ドルの取り組みを開始した。(10日 The Point)
- 20日、ガンビア警察は、トルコ警察から1,300万ダラシ(約3,000万円)相当の必要物品(制服、ブーツ、防弾チョッキ、ヘルメット等)を供与された。トルコ警察は能力開発トレーニング、警官教育等の協力も行っている。(21日 The Point)
- 保健省は、メッカ巡礼から帰国した人に対し、空港到着後新型コロナの検査を実施することを公表した。(28日 The Point)
- 21日に開催された国連平和構築委員会のレビュー会合において、2017年選挙後の混乱から安定に移行したことを受け平和構築の成功例としてガンビアを取り上げた。(28日 The Point)

ギニアビサウ

- 3日、社会再生党(PRS)が国内紛争に関する臨時会合を開こうとビサウ市の政党本部に入ろうとした際に、警察が入館を阻止し、臨時党首の自宅付近で催涙ガスを噴射した。(3日 DW)
- 4日、2022年2月に発生したクーデタ未遂事件の容疑者37名の裁判が空軍基地軍事裁判所にて始

まった。2022年2月1日、閣議中の政府官邸を武装集団が襲撃し、11名の死者が発生した。(3日 DW)

- 6日、カビ元首相は、エンバロ大統領が就任後選挙で表明された民意を無視して政敵を排除すべく議会解散を行ったとの認識を示し、共和国憲法を蹂躪し職権を乱用したとして同大統領を刑事告訴した。(9日 O Democrata)
- 16日、カーボベルデのクルズ教育大臣は、ギニアビサウとの歴史的関係が近いことから、教育セクター、特に高等教育分野に重点を置いて二国間協力を進めていきたい意思を表明した。(16日 O Democrata)
- 18日、3名の閣僚級(エネルギー大臣、文化大臣、若者閣外大臣)の交代が発表された。(18日 Radio Bantaba)
- 18日、政府とIMFの調査団はガバナンスと財政運営に関する協議を開始した。ジジョン調査団長は、両方で合意に達すれば、40億FCFAの財政支援が受けられることを公表した。(18日 O Democrata)
- ナビウム元首相がエンバロ大統領を批判し、ギニアビサウで内戦が発生する危険性を警告したことを受け、24日、エンバロ大統領は同元首相宅の警護を外す命令を下した。(24日 DW)
- 22日、エンバロ大統領はタンザニアを訪問し、サミア大統領と経済、投資、保健、教育等について協議した。(23日 Daily news)
- 27日、マル保健大臣は、自らが所属する社会再生党(PRS)の指導部の勧告に従って保健大臣の職を辞任した。(28日 Radio Bantaba)
- 27日、エンバロ大統領は、複数の閣僚が辞任したことを受け、定例の交代だとの認識を示した。また、すべての市民はデモをする権利はあるが、無秩序を引き起こせばそれに見合った内務省からの応答を受けるだろうとの発言を行った。(27日 DW)

(注) 本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。

(了)